



平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

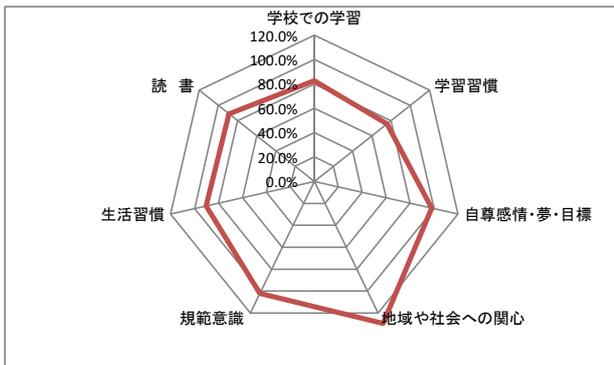
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全国平均と比べると、無回答率が低く、読解力は高いが、書く力が低い。自分の考えが読み手に分かりやすく伝えるように書く問題に取り組む。	上回っている
数学	数と式の正答率が高いが、関数分野の正答率が低い傾向にある。事象を数学的に解釈し、数学的に説明する問題を解けるように、授業の中で取り組む。	上回っている
英語	聞くこと・読むことは、全国平均を上回っている。書くこと・話すことは、全国平均を下回っている。即興で話したり、文を作ることが苦手な生徒が多いので、毎時間、授業全体のうち5分～10分の時間を利用して克服できるようにしたい。	上回っている

2. 本校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



本校の質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家で自分で計画を立てて勉強する生徒の割合は、全国平均を下回っている。定期考査の取組を計画的にさせたい。 家庭での学習時間が、全国平均を下回っている。尾倉ノートや課題プリントを徹底させたい。 将来の夢や希望をもっている生徒の割合は、全国を下回っている。夢を実現させるために、職業講話などで具体的な目標をもたせたい。 毎日、朝食を食べているについて、全国平均を若干下回っている。学校通信などで、朝食の重要性を啓発していきたい。 地域や社会への関心が、全国平均を大きく上回っている。

3. 本校の調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 家庭学習を計画的に行うように、尾倉ノートや課題プリントを徹底させる。
- 授業で、自分で考え意欲的に取り組むように、グループ討議など授業改善を推進する。
- 「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- 尾倉ノートや課題プリントなどで、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。
- 学校便り、学校HPで、学力・体力向上ステップアップについて知らせる。